

県内産業

Information

常にチャレンジを、原点は笑顔と熱意 キャピタルウッズ

キャピタルウッズ株式会社

今回紹介するキャピタルウッズ(株)は、2000年創業と決して古参ではないが、建築用仮設資材の洗浄及びリースからスタートし、住宅建設資材販売、地盤調査、産業廃棄物収集運搬、解体工事、発泡ウレタンによる断熱工事と事業領域を拡大しながら、2020年2月期の年商は15億円に到達するなど成長を続けている。人や企業との出会い、そして縁を大切に、常にチャレンジ精神を忘れないう創業社長である都木謙二氏に話を伺った。

転職を重ね経験を積みながら、35歳で独立

2000年に当社の前身となる建設用仮設資材の洗浄、レンタル業を創業するまで実に15もの職業を転々としたのだという。調理師から始まり、大手工場、温泉ホテル、実演販売、飛び込み営業、型枠大工、水道設備工事、ガソリンスタンドなど多岐に亘っている。一般的な感覚でいえば、長続きせず、業種に一貫性もないなどネガティブな評価となろう。しかし、都木社長は常に自分は何をしたいのか、どのような職業が合っているのかということを考えてつづき、経験値を積み上げてきたので



都木 謙二 社長

会社概要

商号：キャピタルウッズ(株)
所在地：高崎市緑町4-5-14
アイオンズビル2階
電話：027-329-6070
従業員：77名
目的：仮設資材のレンタル、地盤調査、住宅建設資材販売等
年商：15億円(2020年2月期)
代表者：都木 謙二氏
創業：2000年7月
設立：2004年4月
URL：<https://capitalwoods-plus.jp/>
企業コード：220339461
法人番号：3070001010377

ある。また、数多くの職業経験が現在の経営多角化に繋がったともいえる。独立したのも「縁」で、都木社長のいとこに当たる方が行っていた仮設トイレのレンタル事業をサポートする形で仮設トイレの洗浄やダブルリースを手始めに35歳の時に創業した。その後、他社の下請ではなく、自社での直接取引による仮設トイレのレンタル一本で事業を軌道に乗せるのだと覚悟を決め、2カ月間、集中的に飛び込み営業を行った。180社前後の会社に足繁く通い笑顔と熱意でアプローチした結果、そのうちの60社程と新規取引に至ったという。

住宅関連業界を軸に多角的な経営を展開

仮設資材はトイレを中心に、看板、ネット、フェンス、敷鉄板、ゴムマット、プラ敷など多岐に亘っているが、仮設トイレは約2000台を保有し、稼働率も90%以上となっており、県内での取引シェアも高い。これら仮設資材レンタルが新規事業や新規取引の入口となっている。

現在では、仮設資材レンタルに加えて、地盤調査、住宅建設資材販売、発泡ウレタン断熱工事、産業廃棄物収集運搬、解体工事と住宅関連業界に関わる6つの事業を展開している。「事業領域を拡大することで、お客様の要望に対し、一つでも多くの喜んでもらえるサービスを提供できるということ、更にはワンストップで複合的に対応出来るということが強みになっていると思います」と都木社長が語るように、2017年2月期に年商10億円を突破、その後売上は拡大を続けている。

過去には建築工事自体も自社で手がけていたものの、取引先の倒産による貸し倒れの発生が相次いだことで現在に至るまでに、ピンチとなった時期もあったという。このため、現在では建築工事の請負は行わず、仮設資材レンタルを入口として幅広く対応しつつも、取引状況や取引先企業の信用力に応じて段階的に提供するサービスを増やしていくなど、取引深耕に工夫を凝らしている。

発泡ウレタンによる断熱工事

2017年6月に発泡ウレタンによる断熱工事を開始した。当社では「フォームライトSL」を採用、2種類の特殊な液体を現場で屋根面や壁面に吹き付ける工法で、既存の工法と比べて断熱性や気密性に優れ、遮音性が高く、工期が短縮できるなどのメリットがあるという。また、施工準備に関して、従来のグラスウールと比較した場合、現場職人の労務費、防湿シート施工費を考慮するとさほど差がなくなる。施工者の技術面においては差が出てしまうケースがあるものの、原料メーカーによるマイスター制度の認定を受け、施工技術の精度を高めており、経年変化が小さく生涯断熱性能が高い住宅づくりに貢献するため、技術力の秀で

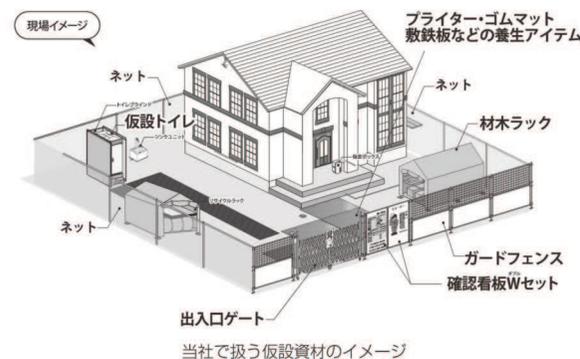
ている社員を中心とした教育体制、施工体制を整えている。

2021年には廃プラスチックのリサイクル工場を立ち上げ、地元群馬県内の農家に貢献を

日本も加盟したバーゼル条約¹に、2019年廃プラスチック類が規制対象として加わり海外への輸出が出来なくなったことで、地元群馬県の農家においても養生シートを始めとする廃プラスチックの処理コストが倍増し、経営の圧迫要因となっている。そうした問題を解消することで地元農家に貢献したいと、群馬県内で初となる農ポリ廃プラスチックのリサイクル工場立ち上げの準備を進め、2021年の稼働を目指している。新工場では、廃プラスチックを回収し、洗浄・破碎・乾燥までを手がけ、加工業者にパトタッチする流れだ。これが当社としては7番目の事業となり、今後も時代の流れに応じた新規事業を模索しながら、将来的には10事業を展開し、リスク分散とワンストップの受注体制強化を図っていく方針。

都木社長は「出会い」をととても大切にしており、「出会い」によって掴んだ「チャンス」を取りこぼすことなく、「感謝の心」と「謙虚な気持ち」をもって真摯に取り組むことで事業の幅が広がり、現在の体制となったと実感していると言う。

「常にチャレンジを忘れず、人に喜ばれ、笑顔が返ってくる仕事を追い求めていきます」という当社の更なる成長を見守っていききたい。



当社で扱う仮設資材のイメージ



発泡ウレタンによる断熱工事

1. 正式名称=有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するバーゼル条約